

万年筆のススメ

Fountain pen

万年筆を知る

万年筆は、何ととっても書き心地が滑らかなので、独特な温もりのある字を生み出せます。弱い筆圧で書けるので長時間書いても手が疲れません。また長年にわたって使うことで、自分の手になじむようにペン先が変わり愛着もわいてきます。

軸はさまざまな太さのがありますが、やや太めのものが持ちやすく、書きやすいです。

インクの供給方法は、ボトルインクの中にペン先を入れてインクを充填する吸入式、インクカートリッジを装填するカートリッジ式、両者を合わせたコンバーター式の3つがあります。最も簡単なカートリッジ式が一般的です。



インクは、細かい溝が彫られたペン芯を伝ってペン先に供給され、スリットというペン先の裂け目を通して出ます。

万年筆のペン先にはプラスチック製、ステンレススチール製、ゴールド製などがあります。特に耐久性が高いゴールドの配合率が75パーセントであるイエローゴールド製が望ましいと言えます。

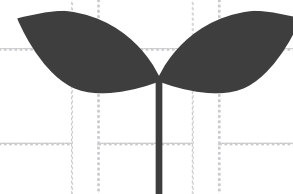
(農・3 極左派)
(受賞おめでとう；編)

Fountain pen

万年筆を選ぶ

1 全体のバランス

何よりも全体のバランスが大事です。自分の好みに合う「太さ、長さ、重さ、重心の位置」を必ず店頭で手にとって試してみましょう。一般的には太い軸の方がバランスが良いです。試し書きができるお店もありますので紙に書いて書き心地を確かめましょう。



はじめに

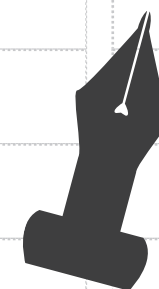
万年筆を買う時は、バランス、ペン先、インク、メーカーの4つの点に注意する必要があります。万年筆は長年使うものなので、まずはデザインに注目し、その後にそれぞれの点で納得できるまで吟味して選びましょう。アフターサービスが充実しているかも確認する必要があります。

長く使い続けるので、飽きの来ないようなデザインの万年筆を選ぶことが大切です。



2 ペン先の太さ

ペン先の太さは、基本的にEEとXF（極細字）、F（細字）、M（中字）、BとL（太字）、BBとXL（極太）の5種類があります。手帳などを書く場合は極細字、ノートなどを書く場合は細字のものが向いています。基本的には細字で大抵の用途に対応できます。



3 インクの色

インクは、単純なブラックのみではなくブルーブラックなどの味わい深い色もあり、好みに合わせて選べます。公式文書調印などでは、ブルーブラックが主に用いられています。ボトルインクであれば、ブレンドして自分の好みの色に調節することもできます。



4 有名なメーカー

エントリーモデルとしてお勧めなのがパーカーで、3,000円から手に入ります。ウォーターマンはお手頃なものから数万円の高級品まで幅広いラインナップがあります。最も高級で世界中で愛され続けるのがモンブランで、多くの作家が使用しています。

montblanc
pilot
waterman
parker

column

万年筆の歴史

万年筆の起源は羽ペンにさかのぼります。しかし羽ペンは耐久性が低い上に頻繁にインクをつける必要があるので非常に不便でした。1800年代初頭になってようやく、イギリスのフォルシュがペン軸にインクを溜める形式のペンを発明しました。さらに1800年代後半には、アメリカのウォーターマンが毛細管現象を利用したペン芯を開発し、それが現在の万年筆の基礎になっています。

(法・1 シャンバリーレ)
(地球の平和は5人に任せた；編)

はみだし
すてーじ

名古屋駅で全身ピンクの人を見ました。
⇒近くにレッド、ブルー、イエロー、グリーンの人はいませんでしたか？

はみだし
すてーじ

年中半ソデ短パンを愛用する私に何か賞を下さい。
⇒たまには長ソデも着ま賞。